最上地区の県立高校再編整備に係る地域説明会記録要旨　【真室川町会場】

１　日　時　令和元年11月11日（月）19：00～20：35

２　場　所　真室川町中央公民館

３　出席者　地域の方々163名

　　県教委　須貝教育次長、生島高校改革推進室長、外　事務局職員４名

４　内　容　生島室長から説明後、質疑応答

５　質疑応答概要

（質問・意見）

○　高校は、地域の活性化に大きく貢献している。今後も真室川校が存続されるよう検討して欲しい。

（県教委）

○　現在、新庄神室産業高校真室川校（以下、「真室川校」という）を含む小規模校の在り方について検討している。単に、高校が存続すればよいだけでなく、高校の魅力づくり、教育環境の充実、地域との連携についての検討も必要と考えている。

（質問・意見）

○　真室川校の生徒は、町の行事への参加、駅の清掃、ゴミ拾い、75歳以上の高齢者宅の除雪作業など積極的に行なってくれており、真室川町を大事に思ってくれている。真室川校では、気持ちの温かい、心豊かなたくましい子どもが育っている。真室川校があることで、地域住民は励まされて元気をもらっており、地域に活力が生まれている。小規模となっても、町の活力の源である真室川校を存続して欲しい。

（県教委）

○　真室川校の生徒は、地域の方々から支えられており、地域に育てられている。小規模校の在り方の検討の中で、単なる高校の存続だけでなく、高校の魅力づくり、地域との連携についても検討していきたい。

（質問・意見）

○　真室川校の生徒は、春は寒梅祭りやマラソン大会、夏は真室川祭り、秋は縁日、冬は独居老人宅の除雪活動等、１年を通して町の様々な行事やボランティア活動に参加してくれている。町を盛り上げ、地元住民に活力を与えてくれている真室川校を、是非存続して欲しい。

（県教委）

○　小規模校の生徒は、生徒数が少ないために一人一人に役割が与えられ、校外の活動により、生徒は大きく成長し、大きな自信となっている。小規模校の在り方については、いただいた意見を踏まえながら検討したい。

（質問・意見）

○　真室川校は、小規模校ならではの特色のある教育活動を行っており、大きな役割を果たしている。最上地区の３分校は、統廃合の基本方針に従えば、来年の入学者が20名未満となれば、

２年後に募集停止となってしまう。入学者数の減少を理由に募集停止とせずに、新しい高校教育の方向性が示されるまでは、現在の高校を維持して欲しい。

（県教委）

○　高校教育では、ある程度の人数の中で学校生活を送ることが必要と考えているため、入学者の基準を20名としている。３分校を含む小規模校の在り方に関しては、地域説明会での意見、小規模校の所在する自治体への意見聴取や懇談会の意見を踏まえながら、募集停止の基準の見直しも含めて検討する。

（質問・意見）

①　10月下旬から実施している地域説明会において、他会場ではどのような意見が出されたのか。

②　以前、真室川校は入学者数の減少から募集停止の危機があった。真室川町は、生徒募集のため、平成28年より真室川校の生徒に対し、入学時10万円、２年次５万円、３年次５万円を補助している。真室川校は、地域コミュニティの拠点となっており、学校、保護者、地域の声に耳を傾け、もっと慎重かつ丁寧な検討をすべきである。人口減少により活気が失われている地域において、学校がなくなることは影響が大きい。

③　山形県にはないが、他県にはある林業科、芸術科、社会福祉科などの特色ある学科を設置し、地域の活性化に繋げてはどうか。

④　昼間定時制とした場合、どの校舎を活用する予定なのか。

⑤　再編により、新庄市内の普通科高校が１校だけとなれば、大学進学や就職など多様な進路希望を持つ生徒が入学することになり、学力差が大きくなるのではないか。

（県教委）

①　新庄会場では、新庄市内の高校の再編についての意見を多くいただいた。地区外への生徒の流出を防ぐためにも、魅力的な高校に再編して欲しいといった意見や、大規模校になじめない生徒のためにも、昼間定時制の設置を求める意見があった。最上町、金山町では、地域振興のため地元の小規模校の存続を願う意見が多かった。

②　今日の地域説明会の意見を参考しながら検討し、令和２年３月に計画案を公表したい。その後、地域説明会、パブリック・コメント、意見聴取を実施し、地域の皆様から幅広くご意見を伺いながら、慎重に検討していきたい。

③　中学校３年生の段階で将来の職業を明確にしている生徒は少ないため、将来の職業に直結する専門に特化した林業科や芸術科などの学科に、毎年40名の入学者を確保することは難しい。また、高校卒業後の出口が保証できるかも考慮しなければならない。普通科は、多様な進路希望に応えることが可能であり、中学生にとって選択しやすい学科である。専門性を特化し過ぎると、その専門分野以外を進路希望としている生徒からは選択肢から外れてしまい、地元の中学生のニーズと合致しなくなるのではないか。

④　昼間定時制とした場合、既存校舎の活用が基本となる。新庄市内の３校が２校に再編になった場合、空いた１校が昼間定時制の校舎として活用することが想定される。

⑤　少子化の進行に伴い、学力差は大きくなると想定される。定員を減らせば、配置される教員数が減少し、生徒の多様な進路希望に対応する教育課程の編成が困難となるため、進学校としては最低５学級が必要となる。新庄北高校では、単位制や普通科探究コースの導入により進学体制を強化してきたが、少人数指導や習熟度別クラスを実施し、幅広い学力差に対応していきたい。

（質問・意見）

○　定時制には、課題を抱えた生徒も在籍しているため、全日制の生徒と校舎が共用しないよう配慮して欲しい。

（県教委）

○　２校が統合し１校になった場合、空いた校舎に昼間定時制の設置を想定しているため、全日制の生徒と共用することはないと思われる。

（質問・意見）

○　移住・定住には、町に高校があるかが重要なポイントとなる。地域との協働による高等学校教育改革の推進において、各都道府県は高校の所在する市町村との連携に留意するようにとある。魅力的な高校、カリキュラムをつくるため、高校と所在する市町村が連携できるよう、県のサポートをお願いしたい。

（県教委）

○　他県では、自治体と高校を結ぶコーディネーターが配置されている例があり、自治体にそのような役割を担う職員が配置されることも重要である。

（質問・意見）

○　新庄市内の高校へ進学となれば、通学経費の負担が大きくなるのではないか。

（県教委）

○　スクールバスを運行する場合、小中学校と異なり、高校の場合は通学範囲が広域であるため制度設計が大変難しい。また、スクールバスの運行により、ある特定の高校への生徒募集に有利になったり、公共交通機関への影響が生じたりするなどの問題がある。

（質問・意見）

①　高校においても、本県の義務教育のように、教育山形「さんさん」プラン（33 人以下学級の実施）は導入できないのか。

②　新庄市の高校に「雪氷科」を設置すれば、全国から生徒が集まるのではないか。

（県教委）

①　公立高校に配置される教員数は、生徒の収容定員数に応じて決まる。少人数学級編制にして入学定員を減らした場合、配置される教員数が減ってしまう。高校では、芸術、社会、理科で選択授業、英語、数学で少人数授業を実施するなど、ホームルームは１学級 40 人でありながらも、授業では少人数で実施している場合が多い。国に対しては、教員数を増やす加配をお願いしている。

② 専門に特化した学科に毎年40名の入学者を確保することは難しく、高校卒業後の出口が保証できるかも考慮しなければならない。専門性に特化し過ぎると、その専門分野以外を進路希望としている生徒からは選択肢から外れてしまう。

（質問・意見）

○ 新庄北高校最上校は、ボランティアや学び直しなど、小規模校ならではの特色ある教育活動を行っているのに、どうして２校程度に再編されてしまうのか。生徒の声を十分に聞いて検討して欲しい。

（県教委）

○ 令和２年３月に計画骨子案を公表後、パブリック・コメントを実施する予定である。メール、はがき、ファックスなどでご意見をお寄せいただきたい。

以上